

# 伊豆海

協会報

一般社団法人 下田建設業協会

第108号

IZUMI

下田市東本郷二丁目7番1号

平成26年6月1日



西伊豆町「仁科峠より望む富士山」

# 就任のご挨拶



下田土木事務所長 安達 行彦

4月の人事異動で、下田土木事務所長として着任いたしました。

下田建設業協会の皆様には、日頃より建設行政の推進にあたり、多方面から御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

県では、少子高齢化の進行による本格的な人口減少時代を迎える中、「富国有徳の理想郷、ふじのくにづくり」を県政運営の基本理念とし、本県の持つ魅力を一層高め、着実な発展を図ることとしております。

一方で、高度成長期を中心に大量に整備された社会基盤が高齢化しつつあり、県土の持続的な発展を支える既存ストックの長寿命化や更新、また、大規模地震への備えなどの防災・減災対策が求められています。

このため、下田土木事務所では、当地域の基軸となる命の道・伊豆縦貫自動車道へのアクセス道路の整備をはじめとした道路ネットワークの充実・強化、公共土木施設の長寿命化、緊急輸送路上の橋梁や河川水門の耐震対策、第4次地震被害想定を踏まえた津波対策、建築物の耐震化の促進、さらには歩道整備などの交通安全対策、土砂災害防止対策、港湾・漁港の機能強化など、地域の皆様の安全・安心でしかも快適な暮らしを確保し、経済を支え産業の振興に寄与する良質な社会基盤の整備・維持管理に努めております。

これらを実現するためには、公共工事の円滑な実施が不可欠であり、建設産業界の重要性はますます高まっております。これまでも地震や台風などによる災害発生時には、復旧作業に御尽力頂いておりますとおり、建設産業は「地域にはなくてはならない存在」でありますので、引き続き、技術力の向上に努められ、法令違反や工事事故を起こすことなく、技術と経営に優れ、県民から信頼される建設産業界となりますよう御尽力をお願いするとともに、今後とも「県土を築き、県土を守るパートナー」として、貴協会の皆様の格別なる御支援、御協力をお願いいたします。



賀茂農林事務所長 志村 弘一

4月の人事異動により賀茂農林事務所長として着任いたしました。

下田建設業協会の皆様には、日頃から当事務所の事業につきまして、格別の御理解と御支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

私は賀茂地域での勤務は初めてですが、農林業の振興を通じて地域の発展につながるよう取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。さて、賀茂地域はジオパークに代表される風光明媚な自然や温泉など豊富な地域資源に恵まれた全国屈指の観光地ですが、一方、急峻な地形や火山噴出物の堆積層が広く分布した脆弱な地質により地震や台風等の影響を受けやすい地域でもあります。

県では南海トラフ巨大地震を考慮した第 4 次地震被害想定を踏まえた防災・減災対策を進めており、農林事務所においても地震、豪雨により発生する山崩れなどの山地災害に備えた治山工事や洪水による災害の未然防止のための農業用河川工作物の応急対策工事等を推進することにより、地域住民の皆様の安全・安心の確保に努めています。

また、農林業の振興においては、温暖な気候を利用して生産される花き類や柑橘類などの農産物を活用した地域産業の活性化や新たな担い手の確保に取り組むとともに、戦後植林された人工林が利用可能な時期となっていることから森林資源の活用を促進しています。

建設業協会の皆様は、緊急時の災害対応や工事の施工等地域において重要な役割を担っておりますが、農林業の課題である耕作放棄地や荒廃森林の再生整備、地域材の活用に係る路網整備など新たな分野における活躍も期待しております。

今後とも引き続きまして、貴協会の皆様の格別な御理解と御協力をお願いいたします。



賀茂地域政策局長 荻澤 敬

4 月の人事異動により賀茂地域政策局長として着任いたしました。

下田建設業協会の皆様には、日ごろから県行政の推進に格別の御理解、御

協力を賜り、厚くお礼申し上げます。



県職員となって以来、下田勤務、下田暮らしは初めてのこととなりますが、ここ南伊豆には、海や大地などの美しい景観、豊富な湯量を誇る温泉、金目鯛や伊勢えびなど海産物をはじめとする食材など、他の地域が羨むような魅力的な資源に溢れた地域であると考えております。

一方で、近年、全国的に懸念されるようになった人口減少や少子高齢化の流れの中で、南伊豆地域においてもこうした傾向が顕著になってきており、国の推計によると、平成 25 年に 7 万人弱である南伊豆 1 市 5 町の人口が、平成 47 年には 4 万 8 千人弱にまで減少するものとされております。

今後、人口減少が進み、ますます地域間競争が厳しくなることが見込まれる中、南伊豆地域が、豊かな資源を生かして地域の活性化を図り、発展していくためには、自然環境を生かした観光交流機能の強化、地域資源の魅力を最大限に発揮する多彩な産業づくり、住む人にも訪れる人にも魅力的な空間づくり、などに向けた取組を進めていく必要があります。

こうした取組を円滑に進めるためには、交通ネットワークの充実や情報通信基盤の確保など社会基盤の整備が不可欠であり、建設業に携わる皆様方の意義が極めて大きいものと考えております。

皆様方におかれましては、今後とも、南伊豆地域の活性化と発展に向けて御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、下田建設業協会のますますの御発展と会員の皆様方の御健勝、御活躍を心よりお祈り申し上げます。





# 伊豆縦貫自動車道

## 下田推進室の紹介



伊豆縦貫自動車道河津下田  
道路は、Ⅱ期区間（川津町梨  
本から下田市箕作）が平成26  
年度から本格的に用地買収や  
工事に着手します。

伊豆縦貫自動車道河津下田

道路は、Ⅱ期区間（川津町梨

本から下田市箕作）が平成26

年度から本格的に用地買収や

工事に着手します。

これまで、沼津市にある沼

津河川国道事務所を拠点とし

て地元調整等を実施してまい

りましたが、これからはより

効率的に事業推進を図るため

に、「伊豆縦貫道下田推進室

（以下、下田推進室）」が設

置されました。

地域の皆様からの伊豆縦貫

道の整備に対する大きな期待

を受けて、この下田推進室が

設置されておりますので、こ

れまで以上に効率的な事業推

進を図り、地元関係機関との

連携を密にしながら、1日も

早い伊豆縦貫道の開通を目指

して業務を実施してまいります。

また、下田推進室の役割は、

事業進捗を図るだけでなく、

地域の方々との密接なコミュ

ニケーションを図り、伊豆縦

貫道を地域の方々が無効に活

用し、地域の活性化が図られ

るよう、一緒に考えていくこ

とも大事な役割です。

是非、事業に関しての相談

や意見等がありましたら、下

田推進室にお立ち寄りいた

だき、皆様からのご意見をお聞

かせください。皆様の発案で、

より良い道路を創りあげるこ

とが出来ると思っています。

最後に、現在、下田推進室

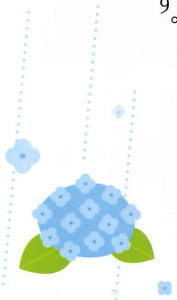
には4名の職員が常駐してお

ります。今年度は以下の役割

分担で業務を実施して行きま

すので、よろしくお願いいた

します。



・室長（藤原）

…下田推進室に関する

業務全般

・用地官（長谷川）

…用地関係業務

・用地係長（晴山）

…用地関係業務

・期間職員（松原）

…受付（庶務）

2014 年 4 月 24 日

河津建設100周年記念式典

## 創業100周年の歩み



おかげさまでわが社は、今年3月創業100周年を迎えることができました。これもひとえに、官庁の発注者の皆様また同業の建設業界の皆様方のお蔭と感謝申し上げる次第です。大正3年に材木商として先代市次郎が創業し、大正、昭和、平成と3時代を生き抜いて100周年を迎えることが出来ますことは、わが社に取ってはこの上ない喜びであり厚く感謝申し上げます。

100年という歴史は簡単に作れるものでなく、毎年一年一年の積み重ねであり、その時の課題や問題を乗り越え、情熱をもって仕事を成し遂げて来た結果、たと思えます。

いつの時代も 社会環境や条件は変化しつづけますが、仕事への熱い思いや、技術者集団としての責任、使命感を基本に、これからも地域を大切に、地域に貢献してまいりたいと考えております。

そして、存在感のある企業としてお客様から親しみを持って「ありがとう」の言葉をいただける企業であり続けたいと思えます。

私達、河津建設社員一同は100年という歴史をしっかりと受け止め

て、「新生 河津建設」を創っていくこと、歴史のレールをさらに延ばしていくことに情熱をもって挑み続けてまいる所存です。今後とも、皆様方の変わらぬ永いご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。



# 現場ルポ



## 工事概要

建設工事名	平成25年度二級河川二条川河川改良工事(根継工)
工事箇所	賀茂郡南伊豆町加納地先
工 期	平成25年8月17日～平成26年3月14日
発 注 者	静岡県下田土木事務所
施 工 者	五味建設株式会社
工事内容	根継工 135m

本工事は将来河川の流路断面を大きくすべく河床を掘り下げた場合、ブロック積み護岸の倒壊を防ぐと共に掘り下げた時に出来る流路の側壁となる根継工事です。

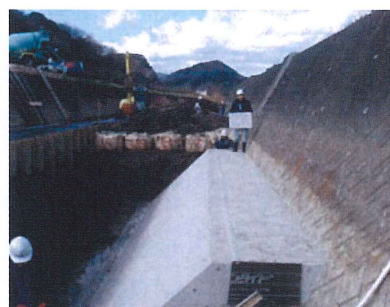
二条川流域は軟弱地盤で河床はシルトに近い黒色粘性土で含水率が高く掘削勾配1:1.0でも崩落する土質です。

1工程の延長を10m限度として1区画づつ間隔を空けながら作業を進めました、崩土対策をしながら掘削後如何に早くコンクリート打設にこぎつけるか作業員一同安全に留意しながら努力を重ねました。

下田土木事務所職員のO.J.T(現場研修)が行われました。



左岸完成



右岸完成



掘削状況



溶接金網



鉄矢板設置



O.J.T

# 事業報告



## 総会

・ 5 月 14 日開催

協会・協同組合・被災防、3 団体の定時総会を東急ホテルにおいて開催。平成 25 年度事業報告及び収支決算、平成 26 年度事業計画及び収支予算、役員改選等について審議し、原案どおり可決承認された。

新役員等は下記のとおりです。  
役員紹介

会長	河津 市元
副会長	田中 豊
副会長	土屋 順一
理事	外岡 兼一
理事	竹内 聖
理事	長田 芳郎
理事	森 敏
理事	鈴木 武
理事	加藤 佳剛
理事	藤井 順
理事	佐野 晃一
総務委員長	長田 芳郎
広報委員長	竹内 聖
災害対策委員長	森 敏
安全委員長	河津 直行
若手の会	井出 新一

土木施工管理技士会

下田地区長 土屋 順一

## 理事会

・ 2 月 12 日開催

協会・協同組合・被災防、3 団体の平成 25 年度事業報告案及び収支決算案、平成 26 年度事業計画案及び収支予算案、任期満了に伴う役員改選、平成 26 年度各委員会等について審議した。

・ 3 月 14 日開催

協会平成 26 年度事業報告、収支決算の承認及び入会金の額の決定、沼津河川国道事務所との「災害時における応急復旧業務等に関する協定」継続の承認ほか、3 団体の総会に付議する議案等を審議した。

・ 4 月 25 日開催

定時総会の開催日程の決定および総会に付議する事項について承認のほか、南伊豆町との災害応援協定締結について審議した。

## 委員会等

▽安全委員会

・ 1 月 21 日開催  
河津・東伊豆地区の現場安全パト

ロールを実施した後、第 8 回安全委員会を開催し、労働災害の状況等について協議した。

・ 2 月 19 日開催

賀茂農林事務所との松崎・西伊豆地区合同安全パトロールを実施した後、第 9 回安全委員会を開催し、労働災害の状況等について協議した。

・ 4 月 22 日開催

委員会を開催し、下田分会及び被災防静岡支部の年間行事予定等の今年度の活動について協議した。

▽広報委員会

・ 4 月 4 日開催

広報誌「伊豆海」第 108 号（6 月 1 日発行）の編集計画の打合せを行った。

▽若手の会

・ 4 月 18 日開催

発足後の最初の会を開催し、今年度の社会貢献・ボランティア活動及びホームページの管理運営について協議した。

▽土木施工管理技士会

・ 4 月 22 日開催

理事会を開催し、年間行事予定等の今年度の活動について協議した。

## その他

▽入札説明会

・ 2 月 12 日開催

国土交通省による入札説明会が下田建設業会館で開催され、会員 10 社が参加した。

▽テレビを利用した監理技術者研修

・ 4 月 9 日開催

（株）建設産業振興センターが下田建設業会館において講習会を開催し、監理技術者 25 名が受講した。

## 事務長挨拶



名高 義彦

この 4 月から協会事務局長を務めさせていただきます。名高と申します。

伊豆は観光が基幹産業と言われておりますが、ソフト産業である観光を別の角度から支えているのは、社会資本の担い手として、地域の安心・安全を創出しているハード産業の地元建設業者であり、地域に対する貢献は他のどの業界よりも大きいと思っております。

地元建設事業者の団体である建設業協会に携わることができ、光栄に思っております。

## ジオパーク 松崎エリア『江戸時代の石切場遺跡』



### 室岩洞

室岩洞(むろいわどう)は、東京品川の「お台場」の砲台建設の際に、大量に必要とされた石材として供給された「伊豆石」の石丁場のひとつです。海底にたまった白っぽい火山灰や軽石の地層を切り出して、船で運び出していたようです。海からも石を切り出した跡が見られます。

また、国道脇に整備された「室岩洞」では石丁場の中に入ることができます。内部は、およそ180mの遊歩道が整備されています。

